



ゆめ通信

第15期利用分量配当実施

専務理事 矢嶋 隆次

平成28年2月26日（金）に開催された第15回通常総会にて、収支決算報告書や損益計算書を上程、可決決定されましたが、同時に利用分量配当を30百万円とする、剰余金処分案も可決決定されました。

この決議に基づき第15期（平成26年12月1日から同27年11月30日まで）の共同購入販売事業における組合員の利用実績の集計に入りました。もっとも集計に手間取る指定配合飼料ゆめシリーズ間接取引の実績集計が7月末に漸く終了しました。この集計結果をもとに利用分量配当金を利用組合員に送金し、剰余金の処分が完了しましたことをご報告いたします。当該期間に共同購入販売事業をご利用いただきました組合員の皆様に改めてお礼申し上げますとともに、指定配合飼料ゆめシリーズ間接取引の実績集計にご協力いただきました飼料メーカーや特約店の担当者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

飼料の配当はトン当りに換算すると222円、精液はメンデルジャパンの割戻が38円／ドーズありましたので、組合員の皆様はそれだけ安く購入できたことになります。

共同購入販売事業の内容につきまして、指定配合飼料ゆめシリーズ直接取引の取扱量は12,554トンと前年比96%で終了いたしました。また間接取引は116,501トンと前年比100%となっております。PEDの流行が一段落し、ゆめシリーズの取扱量は回復するものと思料しておりましたが、前年を若干割り込んでしまいました。全国の養豚用飼料の生産量は前年同月比で98.3%なので、ゆめシリーズは検討しているものと思います。クランブル飼料の利用量も増加し、

ゆめシリーズの中で40%を超えてきています。ゆめシリーズのクランブル飼料も全国展開を考えなければならぬ時代に入ってきました。

その他の商材につきましては、伸び率の高いものからTopigs種豚135%、自家配用プレミックス118%、精液111%、ゆめマミーBなどの混合飼料103%と、この4品目につきましては昨年同様の大きな伸びを示しましたが、その他の品目については、低調とまでは言わないものの振るいませんでした。

今後とも『より良いものをより安く』供給することに努力を続けて参りますので今後とも更なるご利用促進をお願い致します。

◎共同購入販売事業のまとめ

共同購入販売事業利用組合員数 推定327名（利用率：81%）

取扱品目		数量	数量 前期対比	金額 (千円)	利用 組合員数
飼料	直接	12,554 トン	96	655,663	35名
	間接	116,501 トン	100	5,547,000	129名
自家配用プレミックス		61,610 kg	118	27,775	56名
混合飼料		47,180 kg	103	12,380	49名
精液・AI関連		92,038 dz	111	181,456	188名
カテーテル		669,000 本	93	21,079	167名
凝集剤		170,990 kg	99	84,223	65名
資材・薬剤			-	15,284	122名
妊娠診断装置		6 台	75	3,131	14名
TOPIGS種豚		2,197 頭	135	269,486	50名
脱臭剤		91,480 kg	97	51,155	94名

注：金額は概数、飼料価格は工場渡し基準、飼料の間接取扱数量について、金額は推定値（事業高として計上されない）

シリーズ 豚に翔ける夢
農場訪問ルポ

天空の養豚場

佐賀県西松浦郡 (株)池田養豚場

●はじめに

雨の日に訪問した池田養豚場は、標高630メートルの栗の木峠の下を走る国見トンネルのすぐそばに位置しており、さながら雲の中に浮かぶ天空の養豚場のようです。これだけ高地にあると冬は寒くて大変だろうと思いました。長野県に行くとこれくらいの標高にある豚舎は珍しくありませんが、他の県ではあまり見かけたことはありません。

農場の上を走る国道496号線を海岸に向かって下りていくと磁器で有名な有田焼の積出港の伊万里があり、そこから松浦西九州線で南に下ると有田。有田からJR佐世保線で東に4駅行くと1200年前に開湯されたという武雄温泉があります。佐賀県も長崎県も、どこへ行っても山ばかりですね。餌を運ぶのも出荷をするのも大変なところですよ。

●農場の歴史

今から40年前、1976年頃お父さんがはじめられたのが始まりで徳幸さんが二代目です。始めた時から一貫生産で、当時から120頭の母豚を飼育していました。

徳幸さんはサラリーマンでしたが、平成19年頃、徳幸さんが26歳のときお父さんが病気になり、当然のように跡を継ぐ形で農場に入りました。その後平成20年にお父さんが亡くなり経営は徳幸さんが引き継ぐこととなりました。法人化は6年前の平成22年です。現在も規模はその時のままで120頭の一貫生産です。

お付き合いしている金融機関は農林漁業金融公庫です。いろいろアドバイスももらえますし、養豚業を続けていくには公庫とお付き合いするのが最も適していると思っています。

●今後の方向性

規模拡大はあまり考えていませんが、150頭くらいまでは増頭したいと考えたりもしています。敷地が狭

く規模拡大はなかなか困難です。

管理システムはウイークリーです。3-7を採用しようと試みたこともありましたが、子豚の移動ロットが大きくなりすぎて急坂に点々と豚舎がある今の設備では、移動に手間がかかりすぎるため不便なのでやめました。

古い構造の豚舎であるのと、標高の高い位置に立っていることと相まって、秋から春にかけてはとても寒く苦労しています。

特に差別化豚の飼育を目的としたというわけではありませんが、パン粉と甘納豆の煮汁を使った飼料で肥育した肉豚の評判が良く、頼まれて販売していた豚肉が口づてで広まり、今では月間1トン程度まで販売するところまでできました。ここまできると片手間での販売量は超えてしまいましたので、配送などのコストが気になるようになり、営業要員を雇用して販売量を増やすことに踏み切ろうか迷っているところです。

甘納豆の煮汁は種豚にも給与しています。効果は種豚にもでており、発情再帰が良くなってきているように思います。甘納豆ですから“そらまめ”などが原料かと思いますが、豆類には珍しく“そらまめ”には脂溶性ビタミンのAが多いのですが、他にはこれといった特徴はなさそうです。煮汁なので水溶性ビタミンは加熱や煮込みに弱く、損耗してしまうので効果は期待できないと思います。

肉質が良くなるとか、種豚の発情再帰にも効果があるようだとのことなので、煮汁に溶け出してくるでんぷん質がエネルギーとして使われ、そのような効果を表しているのかもしれませんが、栄養原料としての効果は低いと思います。飼料を水で湿らせて給与すると消化率が高くなりますので、原因の多くはこれによると思います。

エコフィード関連では、そのほかに一時は麦焼酎の粕を給与していました。サツマイモの焼酎粕と異なり季節性がないので良いかなと思ってはじめていましたが、酸が強く、コンクリートスノコが溶けはじめたのでやめました。コストダウンにはエコフィードの活用が欠かせませんので、初めのうちは何とかできるのではないかと思います。給餌箱周囲のスノコの劣化が思った以上に早く、途中で諦めました。

●成績など

総産子数は13.0頭、種豚回転率は2.3回です。交配は深部注入だけで、深部注入を一交配に2回行っています。深部注入を始めてから産子数・分娩率とも上がってきました。深部注入では注入精子数を減らすことが可能ということは聞いていますが、精子数を減らすことはしていません。

肉豚出荷は21頭／腹で平均枝肉重量は73.0kgとのことでした。母豚一頭当たり出荷枝肉重量は1,530kgということになります。総産子数は13.0ですが生存産子数は11.0、離乳頭数は10.0頭前後です。総産子数と生存産子数の差が大きく、妊娠期間中の疾病感染があるのかもしれません。育成期の飼育管理が適正でなく母豚の体型が小さいか、妊娠期間中の給餌管理にも問題があるのかもしれません。豚舎が古くとても寒いので、豚舎の建設か改造が課題だと話されていたので構造にも問題があるのかもしれません。いずれにしても母豚回転率2.3回／年から計算すると、総産子数／母豚は29.9、生存産子数／母豚は25.3、離乳頭数／母豚は23.0となります。肉豚出荷頭数／母豚は21.0です。総産子数から出荷までで一頭の母豚が年間に産む子豚の約1／3（9頭）がいなくなってしまうことになります。勿体ないですね。

枝肉1kgあたりの飼料比率は50％程度とのことでした。40年前の豚舎ということですので、飼料のロスも多く大変だと思います。FCについては、液状飼料の乾物換算はしておられないようなのではっきりした数字は出ないようです。

●今後

豚舎が古く（40年経過）なっているので立て替えたのですが、いかにもお金がかかるので逡巡しています。でもこれから養豚業で食っていかなければなりませんので、どこかで決断しなければならないと思っています。

豚舎が古いのは事務所から見ただけで納得できましたが、同時に、階段状に豚舎が建っており、その高低差がかなりありましたので、飼料の搬入、豚の管理や出荷も大変だろうことは容易に想像がつかしました。どこへいっても養豚場は山の中に入り込むことが多くなっており不便なところにあるものですが、池田養豚場もその例に漏れず大変なところにあり、その不利な面をまともにかぶっているように感じました。豚事協の飼料も門司飼料(株)から引き取っていますが、輸送費が半端ではないと思います。

豚舎を建て直すにも子豚や種豚の一時避難所も作れないので、一時期養豚を中断しなければならないと思います。中断するとなると、豚舎建設費用のほかに種豚導入費用や人件費などたくさんの費用が必要になります。国のクラスター事業のような補助事業は、このような地域の養豚家に厚く配分されなければ地方の養豚家は生き残るのが難しいのではないのでしょうか。また、豚事協が行っている飼料や資材の共同購入事業がこのようなところほど必要なのではないかとつくづく思いました。

“養豚業界”は大規模養豚場だけでは維持できないと思います。大中小さまざまな規模があって初めて業界として成り立つと思います。佐賀県でなのか又は佐賀・長崎両県でなのかはわかりませんが、どなたかがリーダーとなって“養豚業界”をまとめて引っ張っていく必要性を痛感しました。また、隣の長崎県は畜産に対し県など地方自治体の支援がかなり手厚いと聞いていますが、佐賀県ではあまり聞きませんので、池田養豚場もあまり自治体からの支援は無いようです。

(矢嶋)



関東支部・東北支部セミナー開催

辻内嘉明関東支部長が田代講師に対し、熊本大震災の余韻も醒めやらないなかの講演に感謝の意を表したあと、会員には一致団結して生き残れるようしっかり学んでいただきたい旨の挨拶をして、関東支部セミナーは7月8日AP東京八重洲通りで開始されました。

講演に入り、「TPP締結後の養豚業界における規制緩和の必要性について」と題して松村昌雄理事長より規制緩和すべき事項について解説されました。主に配合飼料についての説明がなされ、その他の項目に動物用医薬品・動物用医療機器・建築基準法・豚枝肉規格・水質汚濁防止法・臭気規制・屠畜経費と多岐に亘った問題が提起されました。

山根逸郎氏（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門細菌・寄生虫研究領域上級研究員）より「ベンチマーキングから見た経営成績」と題してベンチマーキングの必要性和データ解析された結果が、図と表を交えての巧みな説明に出席者も真剣に聞き入っていました。関東地区のベンチマーキングの結果からは、北関東と南関東に異なった特色があり北関東は繁殖成績が良く南関東は離乳後事故率・農場枝肉FCRに優れていたことが講評されました。

パネルディスカッションの時間となり、まず田代久祐氏（有限会社田代養豚場）による基調講演「優秀事例から見たシステム養豚へのチャレンジ」と題して3-7システムを築き上げた過程が話され、グループ生産システムが必要な農場の6つの要因についてまとめられ、同時に3-7導入後に離乳後事故率の低下が図られた経緯、自農場の成績の推移が苦労談を交えながら語られました。

栗木貢男氏（有限会社ロッセ農場代表取締役社長）の司会によるパネルディスカッションでは「良い豚肉とは？」との問いかけに、会場からは「健康な豚」「供給が安定し、揃った豚」「市場に受け入れられる豚肉」「美味しい豚肉」等の発言があり、その他「飼料費の低下は？」「枝肉重量は？」等コーディネーターと会

場との掛け合いに会場も盛り上がりを見せました。

一方、北海道支部セミナーは7月15日札幌市のかでる2・7で、中岡亮太北海道支部長より短い時間ではありますが、貴重な話を聞けるチャンスであり、皆様にとって有意義な一日になればと思いますとの挨拶で始まりました。

松村昌雄理事長より新任の挨拶に加えて北海道支部のゆめシリーズの利用率が下がっていることが説明され、組合員に対してゆめシリーズの利用の啓発がなされた後、「TPP締結後の養豚業界における規制緩和の必要性について」と題して生産原価を下げる要因となる規制緩和すべき事項について解説されました。

山根逸郎氏（農業・食品産業技術総合研究機構上級研究員）より「ベンチマーキングから見た経営成績」と題してベンチマーキングの歴史が語られました。それを応用し養豚経営では、繁殖成績と肥育成績に大きく分けられて解析されたデータの結果と必要性が図と表を交えて巧みに説明され、他地区のセミナー同様出席者は真剣に聞き入っていました。さらに、北海道地区のベンチマーキング結果では、繁殖成績は良いが肥育成績の向上が望まれるとの提言が図表を用いてなされました。

谷口昇氏（有限会社TPF代表取締役）より、基調講演「優秀事例から見たシステム養豚へのチャレンジ」と題して自己紹介及び農場概要が話された後、密飼をしない農場の長所、Topigs導入前後の成績推移と長所が語られました。その後、飼料の保管・糞尿処理施設等の農場の設備に関する工夫と飼育に関する工夫が体験を踏まえ紹介されました。

パネルディスカッションに移り司会の栗木貢男氏の巧みな話術により会場とパネラーが軽やかな会話で繋がり、時間の不足を感じながら北海道支部セミナーが終了しました。（山田）

豚事協の人工授精用カテーテル

豚事協で取り扱っているカテーテルは、経産用、未経産用、深部注入用の3種類があります。仕入先は岐阜県の㈱タックジャパンで、中国製です。衛生面に配慮して製造工場出荷前のエチレングス滅菌を義務付けています。また国内に入ってから細菌の検出検査を義務付けており、検出がゼロであることを輸入業者に確認させると同時に、豚事協でもその検査結果を確認しています。また深部注入用カテーテルは、インナーカテーテルの長さや弾力性を組合員に確認してもらいながら作り上げました。長さ、弾力性がちょうど良いと評価を得ています。

JPPAの養豚大学校開校式で深部注入用カテーテルの試用結果の発表がありました。例数は少ないものの、特に分娩率向上に効果があるようだとの発表がなされていました。1戸あたり40～50本程度の本数でしたらサンプル出荷いたしますので、事務局にご連絡ください。

ユーザー の声

阪神畜産株式会社（有山水園）

技術部長 西海 一平

豚事協のカテーテル（経産用、未経産用）を使用して約13年になります。以前はフランスのIMV社のカテーテルを使っていましたが、コスト面から他の製品をずっと探していました。

母豚6,000頭で年間40,000本位を使用しますので、まずコスト、それから精度の高い人工授精を行う上での品質が確保されている事、大量に使用するので安定的に供給される事も重要な課題でした。多くの製品は中国や台湾で製造されている事から防疫の問題もある程度考慮されている事も必要です。意外とそんな製品は少なく他の製品に変更する事はなかなか実現しませんでした。

そんな頃に豚事協からカテーテルが販売されると知り調べてみると、条件をある程度クリアしていた事と、医療機器の滅菌に使用される酸化エチレンを使用してガス滅菌が行われており、防疫上のリスク低減に役立つ事から採用となり現在に至っています。

ただし、使用を開始してから全く問題がなかった訳ではありません。カテーテルのスポンジとボトルの取付口の接着が安定していない時期もあり、カテーテルを引き抜く時に先端のスポンジ部分が経管内で外れた事もあります。また、ボトルの取付口がしばしば外れる事もあります。もっと品質面では安定して欲しいとの思いもありますがトータルのコストパフォーマンスは優れているのではないかと考えています。

今後もコストパフォーマンスに優れ、品質の良い商品の開発・販売をお願い致します。

事務局より

いつも豚事協のカテーテルをご利用頂きありがとうございます。商品の不具合に関しましては事務局ではなかなか把握し辛いので、メーカーに改善要請するためにも随時ご報告頂きたいと思い申し上げます。状況により代替品を手配致します。定期的にメーカーを訪問し、製品の衛生面を確保すると共に品質の安定した商品の製造・供給に努めておりますので、引き続きご利用頂きたいと思い申し上げます。

養豚国際フォーラム2016・養豚資材展出版

6月20日に宮崎県都城市・都城市ウェルネス交流プラザで開催された養豚国際フォーラム2016と同時開催された養豚資材展に、賛助会員の(株)タックジャパン、日の出物産(株)、(株)イノセント、福栄産業(株)のご協力の下「日本養豚事業協同組合」として出展し、豚事協の“事業内容”や“支部と活動”について、また“Topigs20の成績”などについてのパネルの展示や、分娩柵・カテーテル・給餌器・快適ファン・ブルスフォグ・養豚用クレヨン等の資材の展示を行いました。

第8回目となる今回は初めて東京以外での開催となりましたが、フォーラム・資材展とも当初の予定を上回る応募があったとのことで、展示スペースに制限があることに伴い、豚事協ブースも縮小され、豚事協で毎回展示をしていたストールが今回は展示出来ず大変残念でした。

しかしながら、藻谷浩介氏(株)日本総合研究所をはじめとした講師陣の顔ぶれは例年通り豪華でセミナー会場の座席も足りなくなるほどの盛況ぶりとなり、生憎の天候の中多くの方々が来場し、豚事協のブースにもたくさんの方にご訪問頂きました。ブースをご訪問いただいた皆様、ありがとうございました。(東野)



事務局からの お知らせ

事務所移転のご案内

この度、下記に事務所を移転いたしました。

移転に伴い、電話番号やファックス番号も変更になっておりますので、特に資材等ご注文の際にはご注意くださいようお願い申し上げます。お手数ではございますが、登録の変更等よろしくお願いいたします。

【新住所・連絡先】

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10 八重洲早川第2ビル6階
電話 03-6262-8990 FAX 03-6262-8991

【アクセス】

日比谷線・八丁堀駅から徒歩3分

東西線・茅場町駅から徒歩6分

東京駅八重洲南口よりバス「東15」または「東16」で6分(バス停より徒歩2分)

*詳しくは弊組合・ホームページのアクセスをご参照ください。(tonjikyō.or.jp/access/)

賛助会員のご紹介

フジタ製薬株式会社

～人とひとしい、いのちを守る～

会社概要

創業／1930年（昭和5年）1月

資本金／1,000万円

所在地／本社 東京都品川区上大崎2丁目13号2番

事業内容／動物用医薬品、動物用医薬部外品、飼料、飼料添加物の製造・輸入販売

動物用医療機器の輸入販売

お問い合わせ先／TEL 03-3447-0611・Fax 03-3447-0612

URL／<http://www2.fujita-pharm.co.jp/>

フジタ製薬株式会社は、1930年（満州事変の年）に藤田合名会社として東京市大崎町（現在の品川区上大崎）に創設し、シクロ（性病予防薬）や家庭薬、洗顔クリームを発売し、スタートしました。1935年に社名を藤田製薬株式会社に変更し、1948年には軍馬用に使用していた医薬品にヒントを得て、動物用医薬品の生産を開始しました。1958年には鉄欠乏性貧血治療剤「トンキー」1960年には持続性サルファ剤「リンダー」を開発販売し、創立30周年で動物用医薬品が売上の主流となりました。1968年には社名を現在のフジタ製薬株式会社とし、1977年には個体識別用耳標、「オールフレックスイヤータグ」の販売を開始しました。その後、豚用内外部寄生虫駆除薬「イベルメック注・散」豚胸膜性肺炎治療薬「フロルフェニコール散・注・液」肺炎治療薬「チルミコシン散」豚コクシジウム病発症防止薬「豚用コクシトール」の動物用医薬品に加えて、子豚の健やかな成長をサポートする混合飼料「アーリースタート」を発売しました。2016年7月には、オリックス株式会社からの資本参加を受けることを発表、今後はオリックスグループの一員として成長産業である農業畜産業、特に養豚産業に於いて、尚一層より貢献できる企業となるべく努力してまいりますので何卒宜しくお願い致します。



株式会社大宮製作所

～京都の畜産設備機械
専門メーカーです～

会社概要

設立／昭和23年7月7日

資本金／4,800万円

代表者／栗山裕光

所在地／京都府宇治市伊勢田町中の荒30

事業内容／畜産用設備機械製造販売

お問い合わせ先／TEL 0774-41-6184・FAX 0774-43-2552

URL／<http://www.omiya-ss.co.jp>

弊社は畜産用設備機械の国産製造メーカーとして日本全国を販売エリアとして事業展開しております。養豚分野につきましては自動搬送機並びに自動給餌機を中心としてお客様の作業の省力化に努める様、アフターフォローも含めてご愛顧いただいております。弊社の自動搬送機はオーガータイプ、ケーブルタイプ、チェーンケーブルタイプに加えて弊社独自の駆動部を分散した搬送機等多彩なラインナップを取り揃えております。また、各機種についても夫々搬送能力の異なる数種類の型式を持っておりますのでお客様の要望や規模にマッチした最適の搬送機を選定して納品させていただくことが可能です。また、弊社はアフターフォローにも力を入れており、万が一のトラブル時にも迅速に対応できるよう心がけております。日々お使いになる給餌と言う作業であるからこそ国産メーカーとしての信頼と安心感を皆様にお届けし、日々皆様に安心して作業していただける様スタッフ共々日々努力しております。





《豚の体脂肪》

豚の体脂肪は何%くらいご存知ですか。

正解は14～18%、太って見える豚でも18%です。下の写真で言えば一番右のヒトですね。

ちなみにロースの芯にサシがたくさん入った豚肉でも5%以下です。



● ● ● 豚 事 協 の 年 間 行 事 ● ● ●

理 事 会

第 1 回	平成28年 1月22日 (金) (東京)
第 2 回	平成28年 2月26日 (金) (東京)
第 3 回	平成28年 4月15日 (金) (東京)
第 4 回	平成28年 7月22日 (金) (東京)
第 5 回	平成28年10月21日 (金) (東京)

支 部 会

中 部 支 部	平成28年 5月20日 (金) (名古屋)
関 東 支 部	平成28年 7月 8日 (金) (東京)
北 海 道 支 部	平成28年 7月15日 (金) (札幌)
東 北 支 部	平成28年 8月26日 (金) (盛岡)
中 四 国 支 部	平成28年 9月16日 (金) (松山)
九 州 支 部	平成28年10月14日 (金) (熊本)
沖 縄 支 部	平成28年11月25日 (金) (那覇)

女 性 部

第8回女性部セミナー 平成28年 9月12日 (月)～13日 (火) (東京)

そ の 他

若手経営者育成塾第6講座	平成28年 3月 8日 (火)～9日 (水) (東京)
若手経営者育成塾第7講座	平成28年 6月 7日 (火)～8日 (水) (東京)
若手経営者育成塾第8講座	平成28年 8月23日 (火)～24日 (水) (東京)
海外視察研修	平成28年11月12日 (土)～19日 (土) (オランダ・ドイツ)

※青字は平成28年 9月 1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

編 集 後 記

友人からミニ盆栽のワークショップに誘われたので行ってきました。参加人数は15名程。講師は大阪出身のカナリ美人盆栽師！年2回紅葉を楽しむことができる楓の盆栽を作るのがテーマで、基礎からとても分かりやすく教えて頂き、話も面白くあっという間に時間が経ちました。盆栽って細かい配慮が必要な、繊細な作業なんだなとしみじみと感じつつ、土の部分にはコケを盛り付けとっても風流な出来栄で、大満足のワークショップでした。

「盆栽なんてご年配の方の趣味じゃないの？」と言われる度、「私が習ったのは「bonsai」と言って海外の方にも人気がある小粋な趣味で、とってもオシャレなんだ！」と熱く語り、会う人会う人に画像を見せびらかす始末。私は雑草すら枯らす位の育て下手ですが、毎日がいかに世話をしている思い切り愛でていましたが、ある日事件が起こりました。天気がいい日だったのでたっぷりとお水をあげ、数時間で日陰になる場所(日を当てすぎると乾燥してしまう)に設置して外出。2時間ほどで帰宅し盆栽を見ると、無残にも倒れて土は飛び散り、コケは根こそぎむしり取られ、無残な姿となっていました。どうやら鳥に襲われたようです。実がなるタイプの盆栽ではなかったのですが、まさか鳥につつかれる事もないだろうと思っていましたが、甘かったです。盆栽は、下の方の根っこはかなり切っても元気なのですが、土表面にある上の方の根っこが傷つくとなってしまう。手厚く手当をしましたが、今は葉っぱも全部枯れ、鉢に棒が刺さっているだけになってしまいました。残念。

散々自慢した友達にたまに盆栽の事を聞かれますが、今更枯れたなんてとても言えないのでのりくらりと話を交わしています。私は失敗してしまいましたが、とても風流でかわいらしいミニ盆栽。あなたも始めてみませんか？